

水の郷めぐり 第1回 香川用水



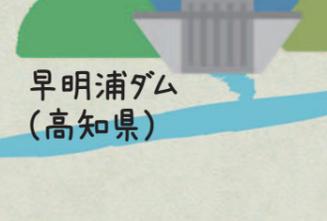
水資源機構が管理するダム、水路、河口堰など様々な「水の郷」を巡る新企画。水とともに生きる魅力あふれる町を訪れ、そこで働く人々をご紹介します。第1回は、「さめきの大動脈」と呼ばれる「香川用水」です。



宝山湖
宝山湖の貯水量は約300万m³。香川用水管理所でダムカードをGETできます



東西分水工
分水工周辺の広場は香川県によって「香川用水記念公園」として整備されています



早明浦ダム(高知県)

うどん県には水がなかった!?

四国の北東部に位置する香川県は瀬戸内式の気候で、全国的にも雨の少ない地域です。そのうえ河川延長が短く急勾配なので、降った雨もすぐに海に流れてしまいます。このため、古くから水不足に悩まされてきました。戦後、「四国は一つ」の理念のもとに四国最大の河川である吉野川の開発計画が進められ、その一環として、昭和49年に香川用水が完成。香川用水は水道用水のほか、農業用水や工業用水を供給する香川県最大のライフラインであり、社会経済活動の大動脈となっています。

水が辿る旅

高知県の早明浦ダムに貯えられた水は吉野川を流下し、徳島県の池田ダムの貯水池内にある香川用水の取水工から、阿讃山脈を貫く導水トンネルを流れていきます。その水が香川県にはじめて姿を現すのが、三豊市財田町にある東西分水工です。ここからさらに、幹線水路及び幹線水路から枝分かれしている支線水路により、県内のすみすみまで配水されています。

なお、香川用水の全長106kmのうち、香川用水管理所(水資源機構)が管理している区間は、農業用水、水道用水、工業用水が流れる「共用区間」であり、その延長は約47kmです。それよりも下流の、農業用水のみが流れる「農専区間」は香川用水土地改良区が管理しています。

宝山湖を彩る青いスイレン

香川用水では、湯水時や大地震などの緊急時でも水道用水を安定的に供給できるよう、調整池である「宝山湖」を設けています。

そしてこの宝山湖は、四季折々の花が楽しめる癒しのスポットとしても地元で愛されています。宝山湖の上流にあるピオトープで、10月の取材時に可憐な姿を見せてくれたのは、「青いスイレン」でした。この青いスイレンを宝山湖で育ててこられたのは、地元の関子忠義さん。日ごろからピオトープの管理にお力添えいただいております。ボランティアでたくさんの花々を育てていらっしゃいます。関子さんによると、青いスイレンには一日に200~300人ほどの方が鑑賞に訪れ、リピーターも多いそうです。

スイレンのほかに、ヒガンバナや桜、アジサイなど多くの花を植え、訪れた人々の心を癒している関子さん。「大勢の皆さんに見ていただき、花にきれいだと言ってもらって欲しい。わたしはとにかく皆さんの笑顔を見ることが嬉しいです」と語ってくださいました。



青いスイレンは、フランスの巨匠、印象派の画家モネが自宅の庭に咲かせることを夢みたと知られています。しかしフランスの気候ではその夢は叶わず、モネは青いスイレンを想像で描いたそうです



関子さんはじめ、地元の皆様の方で宝山湖の美しい環境が守られています

古くて新しいまち・琴平

香川用水管理所が位置する琴平町。「こんぴらさん」と親しまれている金刀比羅宮を中心に、その門前町として発展してきた歴史があります。海の神様で全国に知られる金刀比羅宮は、象頭山山腹に鎮座する社です。石段を登る長い参道には土産物店や飲食店が並び、古くから大勢の参拝者で賑わっています。



御本宮までの石段は785段



かまたまソフト
(提供:にしきや)
ショウガ味のソフトクリームにネギと醤油をオン



御本宮からの眺め



讃岐うどんの牛打ち体験も♪
(提供:中野うどん学校)

風情ある町、琴平ですが、最近では東京の企業と連携し地域活性化に向けて取り組むなど、新たな活動が展開されているそうです。琴平町観光商工課の中川允志さんに、琴平町の魅力を伺いました。「新しいお店が出てきて、地域の人たちが守ってきたものがあって、新しいものと古いもので成り立っている町です。観光だけでなく、農業の町という側面もありますし、小さな町ですが、歩いているだけでも色々な魅力を発見することが出来ます」

おいりソフト
香川の伝統菓子、カラフルなおいりをトッピング

香川の水の守り人

香川用水管理所の職員のみならず、多くの人々に支えられている香川用水。「香川の水の守り人」たちにお話を伺いました。

香川用水管理所では、延長のある水路を効率よく管理するため、作業の一部を外部に委託しています。「二人一組で車を使い、一日平均120~130km程走ります。所要所で止まり、設備の点検、水路の除塵などを行っています」と話すのは、施設の巡視点検を担当されている(株)アイ

テックの馬道亨さんと田島男さん。全国各地での勤務経験を持つおふたりは、一級土木施工管理技士ほか数々の資格を持つスペシャリストの目線で、日々施設の点検をしています。気づいた点を担当職員に伝え、それが改善に繋がることにやりがいを感じるそうです。



馬道さん
息子さんプロのギタリストとして活躍されています！
田島さん

香川用水土地改良区 藤井大輔さん

私が所属する管理課では、香川用水の配水管理と施設の維持管理業務を行っています。配水管理では、地元土地改良区等への聞き取りや溜池の貯水状況を参考にして、無駄のない配水を日々心掛けています。また、香川用水の成り立ちや役割を子ども達に学んでもらうことを目的として、平成15年度より県内の小学4年生を対象に出前授業に取り組んでいます。令和2年度は、15校568名の生徒を対象に実施しました。香川用水が通水を開始してから40年以上が経過し、今では、香川用水がある生活が当たり前となっている小学生に、成り立ちや役割について写真やクイズを用いて分かりやすく伝えるように、毎回工夫を凝らしています。授業を終えた子ども達から、「これからは水を大切にします」と言われたときは大変やりがいを感じます。今後も、子ども達が香川用水を大切にしたり水源地域への感謝の気持ちを持っていただけるように頑張っていきます。



香川県広域水道企業団 広域送水管理センター 向井政博さん

東部浄水場では、香川用水から原水を取水し、浄水処理をして高松市・さぬき市・東かがわ市・三木町・綾川町へ送水しています。私は、適切に浄水場の運転ができるよう委託業者と共に運転業務を行っています。また、経年劣化している様々な設備の修繕や更新も重要な仕事の一つです。私たちの生活に欠かせない水道水を供給する責任があることから緊張感がありますが、安心して安全な水を安定的に届ける浄水場の仕事にやりがいを感じます。また、以前私は民間企業で工事を施工する立場でしたが、今は発注する立場になりそれぞれの仕事の大変さを実感しています。今後はこの経験を活かしてより柔軟な考えを持って日々の業務に励んでいきます。



職員 INTERVIEW

●総務人事グループ 森野 真如



総務・人事・広報を担当しています。入社して半年が経ち、初めよりは業務の流れをつかめてきました。ですが、個々の業務によって細かい部分など違ってくことも多いので、そういったところに難しさを感じています。職場の雰囲気はとてもよく、仕事もやりやすいです！

●建設グループ 四宮 弘智



水路改築の建設を担当しています。建設というと、維持管理に要する何倍もお金が必要となります。さらに、水資源機構の水路は農業、水道、工業と様々な分野の水が流れていて、関係機関や団体の数も多いです。そのぶん合意形成に向けた調整は大変ですが、うまくいったときにすごくやりがいを感じます。

●施設管理グループ 三浦 竜也



主に施設管理の業務に携わっています。地元の方からの要望に応え、「すぐ対応してくれてありがとうね」などと言われるとやはりお互い気持ちよくて、やりがいを感じます。また、新規の工事の内容を地元の方へ説明し、機構の施設の重要性をご理解いただけたときには、仕事が少しずつ進んでいるな、と実感します。

●施設管理グループ 吉川 祥太



機械担当として、香川用水管内の配水に関わる機械などの保守修繕をしています。地元で直結する仕事ではないので、「縁の下」の存在ですが、たとえばひとたび防災のタイミングになったときに私たちの整備したものが問題なく動き、役に立っていると、「やってよかったな」と実感します。

住んで分かった！香川の推しポイント

水資源機構も、(株)アイテックも、“全国転勤”という共通点があります。そこで、全国を飛び回る皆さんに聞いてみました♪

- 馬道さん
いい意味で昭和っぽさが残っている感じがしますね
- 河合所長
果物が安くておいしい。特に桃を買ったときは感動しました
- 田島さん
小豆島のお醤油もおいしいですよ。お醤油がおいしいと感じた暮らしは香川ではじめてです
- 吉川
面積が狭く、海と川が近いので、全てを短期間で楽しめます
- 森野
優しい人が多くて、あったかいです
- 三浦
やっぱりうどん県なので、うどんがおすすです。週の半分くらいはお昼にうどんを食べます
- 四宮
気候も県民性も穏やかです。お遍路巡りが有名なところなので、おもてなしの文化がありますね

流れの先も見据えて

人々の思いを乗せ、24時間休むことなく流れ続けている香川用水。香川用水管理所の河合久志所長に、今後について聞きました。「水を安定して安くお届けする



河合 所長

のは水資源機構の理念なので、そこをしっかりとやっていくのは当然です。そのうえで、培ってきたノウハウや技術、さらにITも活用して効率化を図り、働き方改革につなげていきたいです。職員自身が自分たちの役割を理解し、楽しく明るく助け合いながら仕事ができるようにすることを常に考えています」そして、自分たちの送る水がどう使われているのか、まず職員自身がしっかりと知ることが大切だといいます。「施設の管理だけしていると、その流れの先で水を使う

人々の顔を思い浮かべる機会はどうしても少なくなってしまう。そこで、香川用水の水を使って製品を製造している工場や、作物を育てている農家を見学したいと考えています。実際にその姿を見ることによって、施設の重要さ、そして水を送る責任や、やりがいを感じることができるはず。コロナが落ち着いたら、受益地を見に行きたいです」
流れの先を見据え、香川用水はこれからも大切な水を送り続けます。